

第十六章 錦帶橋再建完工式の光景

一、素晴らしい歴史的記録の一日

錦帶橋の再建工事は、実は去一月十五日の渡初式挙行の時に既に殆んど竣功したのであるから、此時を以て完成式を挙ぐると共に渡り初め式を行うてもよかつたのである。しかし橋台保護の河床工事と、橋梁の或る部分に於て尙補修すべきものとがあり、其の成るを待つて五月三日（昭和二十八年）恰も新憲法發布記念の日を卜し完工の式典を執行した。流失以来二年有余、或は天候難と戦い或は財政難と戦い、百苦万難を克服して茲に壹億壹千八百万円の大事業を成遂げ、錦帶橋の在らん限り永久の未来に向い、素晴らしい歴史的記録を示したことは、岩国現在市民六万五千人の誇りとして爰に「錦帶橋史」の筆を収めたいと思う。

昭和二十八年五月三日——錦帶橋が名実共に復興完成した其の日——岩国市は官民代表約四百四十人を市役所樓上に招いて、新憲法發布記念の御祝と共に、克ち得たる一大文化財の橋靈に向つて祝盃を挙げた、といつても既に一月十五日の渡初式に於て豪華版の盛宴に満胸の歡びを尽したから、今日は極めて簡素な立食に、冷酒三杯の儀礼に止めて閉会した。之に従うて市中の祝賀行事も渡初式当日のように熱狂的豪華でなく、其の縮小版に止めて建橋大団圓の吉日を祝うて最終幕を飾つた。其れにしても各所思い／＼の行事に、市内は勿論、近郷からの人出は三万人に達したというから相当の賑やかさであつた。当日の模様について各新聞紙は競うて報道した。今著者の手許に在る「毎日新聞」五月三日の朝刊記事より其の日の状況を記しておこう。

二、祝賀いろいろの行事

『錦帯橋完工を祝う。時はよし、きよう憲法記念日、打揚げ花火に行事の幕開け』の大見出しで次のように

自然美に調和して太古の絵のように虹形の橋、錦帯橋——この橋にきよう三日よき誕生日が訪れた。橋畔の街には「橋祭」と染め抜いた飾りビラや、毎日新聞の紙旗が薫風にゆれ、橋の両側や街々の要所には「祝錦帯橋完工」のアーチが建つた。二百八十年目にこの橋の創設者吉川広嘉卿当時そのままであるが、近代科学の粋を集めて永久不落を誇る名橋が、再び完工した喜びが全市にみなぎっている。

三日午前七時、橋畔から打揚げる花火の音とともに完工の日の幕があく。朝九時から市役所階上に集つた約四百四十名の人々はまず憲法記念日を祝福、引続き同会場を完工式に切替え、久能市長のあいさつ、品川錦帯橋建設局次長の工事報告、工事請負者らへの感謝状贈呈、祝辞などがあり、松井郵政省郵務局長から久能市長に観光百選にちなむ切手の初刷贈呈が行われ、このころから市内では同橋を中心に花やかな諸行事の幕をひらき、市内各町からこのよき日の感激を祝福しようと、繰出すシャギリ隊などが喜びを各所に爆発させる。

なお三日岩国市役所で行われる観光地百選入選記念錦帯橋観光切手初刷贈呈式に、郵政省から松井郵務局長、中村切手係長、錦帯橋映画製作と観光百選に尽力した毎日新聞東京本社事業部顧問羽太文夫氏、毎日新聞西部本社から富岡事業部長らが列席する。

完工祝賀行事の第六回岩国美術展は一日から岩国市教育委員会階上で開幕したが、油、日本画、水彩、クレパス画、彫塑、工芸品など約百五十点のほか藤山一雄氏作のパレスタイン風物四十点を集め、美術愛好家の人気を呼んでいる。二日には河上徹太郎氏の講演、三日には能大会、相撲大会、庭球、柔道、茶会、郵便切手展、芸能コンクール、ミス錦帯橋選

彰、名士演芸コンクールなど、五日には合唱祭、学童写生コンクール、NHK話の泉など盛沢山な行事が行われる。

(五月四日毎日新聞朝刊) 一部既報、三朝九時から行われた名橋錦帯橋の完工式に引続き、午後一時、錦帯橋河原で准ミス六名の中からミス錦帯橋に選ばれた同市出屋敷福本巖氏二女竹子さん(一九)——岩国高校出身——他准ミス本川満須子さん(二〇)ら五名の発表会が開かれ、ミス錦帯橋に米空軍岩国基地司令官ジョセフ・A・モリス大佐や幼い令嬢たちからの花束贈呈が行われた。午後一時半同会場で開かれた本社岩国通信部主催の芸能コンクール、名士演芸大会、横山グラウンドの「ハヤシ田踊り」などが人気を呼び、橋の附近は三万余の人出、市内では各町から繰り出したシャギリでにぎわい、夜は錦帯橋の両側に古式豊かな、かゝり火がたかれ、夕やみの錦川にクラシクな橋の姿を美しく浮き上らせるなど、よろこびの声が夜半までつづいた。(以上、毎日新聞)

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

よろこびの声は夜半までつづいた。此の声は久遠に跨る錦帯橋の、百年千年を祝福する声なのである。錦帯橋あつての岩国、岩国あつての錦帯橋、その昔、日本に於ける洋画の鼻祖、司馬江漢の油絵具の筆に描かれ、又浮世絵の泰斗、安藤広重に画かれた錦帯橋。或は又頼春水を始め古今の文人雅客に歌われた漢詩や、やまと歌に詠まれた其の錦帯橋の四季とりどりの絵姿、其れを我れ我れ錦城巖陽の岩国市民は孫子の代まで守りつづけてゆかねばならない。此の書に筆を著けて以来、今や將に終篇を録せんとする餘年少なき白頭の著者、後世の紳士淑女市民に對し数言なかるべからず。其れは次の十七章に特に記し遺すこととして、茲には完工式当日の久能市長の満腔の喜びを湛えた感謝の言葉、之に對し來賓の共鳴並に品川建設局次長の工事経過報告を再建終幕の最後の声として存録し、此くて大団圓を告げる。

清流に躍る若鮎の如く

岩国市長 久 能 寅 夫

本日茲に憲法記念の佳き日を卜し名宝錦帯橋の完工式を挙行することを得ましたことは誠に御同慶に堪えないところであります。

去る一月十五日盛大なる渡初式を挙行致しましたが、その後の工事の全工程も漸く終了し、こゝに有終の美を飾ることを得ましたことは、七万市民の深き御理解と関係各官公庁、報道機関等の絶大なる御指導御援助及直接工事に携わられた人々の汗と努力の結晶でありまして欣喜雀躍のうちに赤誠以て感謝の意を捧げる次第であります。

薫風爽やかなる五月、緑したる城山を背景としてくつきりと浮ぶ優美なる名橋の姿こそ清流に躍る若鮎の如く躍進岩国のシンボルであります。

この名宝を皆様と共にいつ／＼までも保護し、益々世界の名橋として天下に宣揚すべく努力致すことを念願し、この榮ある式典の御挨拶と致します。

山口県の誇りとして

山口県知事職務代理 橋 本 正 之

憲法記念のこの佳き日に当り錦帯橋の完工式を挙行せられますことはまことに御同慶に堪えないところであります。

錦帯橋は昨年十二月第三橋の完成をもつて一応五橋の全部の竣功を見去る一月十五日には晴れの渡り初め式が盛大にとり行われ私共県民のひとしくよろこびにひたりました事は未だ記憶に新たなところであります。

その後も関係当局の手によりまして引続き、これが復旧工事が続けられ、つゞがなく全工程を終え本日こゝに目出度く完工式を挙げられるにいたつたのでありまして関係御当局の御苦心は言うに及ばず私共にとりましても真に感慨一しお深いものがあります。

思えば昭和二十五年九月のキジャ台風による洪水により惜しくも全橋流失の憂き目を見ましてよりこれが復旧については幾多の難関がありましたにもかゝらず、中央関係筋のよき理解と市当局はじめ地元各位の切実なる御要望と強き御熱意により早くも翌二十六年二月には着工の運びとなり爾来二年有余にしてこゝに完全なる復元を見たのでありましてその間におきます中央及び市当局並びに地元各位の並々ならぬ御努力に対し重ねて深甚なる敬意を表するものであります。

岩国といえは錦帯橋、錦帯橋といえは岩国を連想する程岩国と密接な関係にあり而も重要な文化財としてはた名勝として古来天下に名を成したこの橋が流失いたしましたとき岩国市民の皆様のみならず私共県民の胸中には言い知れない一抹の寂寥感があつたのでありますが今やもとの姿に立ちかえり錦川の清流に浮び而も二百八十年にわたる伝統的技術に近代科学の粹を含めて昔日にも増して夢の如く優美な景観を現わしておるのを見ますと誠に心の暖まる思いがいたしましたのであります。

私どもの誇るに足るこの文化財が再現しました事はひとり岩国市のためのみならず本県にとりまして誠に祝福すべきことといわねばなりません。

こゝに完成を機会に観光文化都市岩国がますます繁栄されますとくに本県の誇りとして錦帯橋の名声が日に倍して世界に高らかに響きわたりますことを念願してやみません。いさゝか所感を述べて祝辞といたします。

名 橋 の 都 岩 国

山口県会議長 二 木 謙 吾

百花繚乱の季節ここに錦帯橋の完工式を挙行せらるゝに当り一言御祝辞を申し述べ機会を得ましたことは私の最も慶びとするところであります。

昔から詩に繪に四季の移り変りを美しく表してきた錦帯橋「五つの反り橋」として世界的に名高く、錦川の清流に映えて

夢のような美観を呈して訪れる者の瞳を奪っていた錦帯橋、然るに惜しい哉この名橋も昭和二十五年九月のキジャ台風により哀れ流失の慘に遭遇したのでありますが、あれから二年有半、岩国市当局並びに地元各位の切なる熱意と関係御当局の深甚なる御理解とによりまして昔の姿そのまゝの名橋錦帯橋が再建せられ「名橋の都岩国」として昔の魅力を再現し、ここにその喜びの完工式を挙行する運びとなりましたことは、たゞに地元各位のみならず百四十万県民の大いなる慶びとし、延いては観光日本の至宝として世界に誇示するところのものであります。

就きましては、今後地元民各位におかれましては本橋並びに環境保護に充分留意せられ、益々その観光的声価を高められんことを念願してやまぬ次第であります。

終りに臨み、本橋完工にいたしますまでの関係者各位の御労苦に対しまして深甚なる謝意を表しまして本日の祝辞といたします。

偉大なる業績をたたえる

山口県教育委員会

憲法記念日の今日の佳き日名勝錦帯橋の完工式を挙行されるにあたり一言お祝いのことを申し上げます。五つの反り橋として長い歴史をもち世界にその名を知られた名勝錦帯橋が一昨々年九月中旬のキジャ台風でその美しい姿を消してしまつた時には本当に悲しい思いをいたしました。

しかしながら岩国市を中心とした皆様の熱烈なる復興の意気はかの吉川広嘉公の偉大な創造力と実行力にもまして力強く發揮され再来二年有余ここに往古三百年の麗容そのまゝを再現することが出来錦川の清流に映じているこの美しい反り橋をみる時、改めて皆様の御努力を感謝するとともにこの式に参列出来ましたことを心から光榮に存するものであります。

全長二百米巾五米のこの錦帯橋が早稲田大学の佐藤青木両先生の御指導により構造形式ともに原型そのまゝを再現されそ

の上種々の秀れた近代的科学的技術が加えられ保存上万全の処置をとられたことに対し私どもは其の偉大な業をたゞえりとともに大いなる喜びが心の底からわき上るのを強く感じるのであります。

どうかこの錦帯橋が美しく往古の姿そのまゝに今後も世々とこしえに錦川をかざることを祈りつゝ岩国市民各位、各関係当事者の御労苦と御熱意に敬意を表してお祝いの辞といたします。

観光切手に対する感謝

岩国市長 久 能 寅 夫

岩国市の象徴とも謂うべき名勝錦帯橋は延宝元年藩主吉川広嘉卿の傑れた考案によつて創建されて以来二百七十有余年御城山のみどりを背景に錦川の清流に影を映じて参りましたが昭和二十五年九月十四日キジャ台風の洪水に敢なくも崩壊いたしました時、あたかも毎日新聞社の主唱にかゝる日本観光地百選の行われている最中で名乗りを上げた錦帯橋を持つ当市としては一時途方に暮れた有様でした。然しながら再建の意欲に燃える六万市民はこの不幸に屈せず一層の熱意を奮い起して運動を続けましたが、その結果は市内県下は勿論不慮の天災に全国の同情翕然と聚めて百二十三万八千余票の数字となり建造物の部に首位当選の栄冠を獲得したのであります。

この度、その名譽を記念するため錦帯橋を図案とした観光切手が発行され本日郵政大臣閣下代理の御臨席を得てその贈呈を受けますことはまことに感慨無量なると共に今更乍ら江湖各位の御同情御後援に対し感激を新にするものであります。更に又この切手が国内のみならず遠く国外に迄我等の祖先が残した優秀なる文化財再建の喜びを伝えることを思い御同慶に堪えない次第であります。

茲に本観光切手の発行に御尽力を頂いた関係各位に深甚なる感謝を捧げ私のお礼の言葉と致します。

錦帯橋の災害復旧工事は昭和二十六年二月二十二日起工致しますや、直ちに旧橋の残骸取除作業を開始すると共に綿密な地質その他の調査を実施し、同年五月には錦見側の橋脚工事に着手して愈々再建の第一步を踏み出した訳で御座います。爾來工事は比較的好調を辿り、二十七年六月には錦見側の二橋、同年十月には横山側の二橋、同年十二月には中央の一橋をと矢継早やに架橋を進めることが出来去る一月十五日取敢えず渡初式が挙行されたのでありますが、その後も引続き残工事を施行中のところ、此の度全工程を終え、復旧工事の完遂を見るに至つた次第で御座います。

再建された錦帯橋の構造、形式は原型に倣い、細密な原寸図、設計図書によつて正確に施行されておりますので、高欄が亨和二年頃の古い形に復元致しました外は外觀に於て殆んど昔と変る所はありません。

新しい錦帯橋の構造に於て改善を加えられた主要なものを挙げますと、
第一に橋脚（台）の基礎と橋脚軀体内部は鉄筋コンクリートとし、所謂近代工法の採用により名橋を永久的存在たらしめるよう工夫されたこと。

第二は橋脚を従来よりも五十糎乃至一米高くし洪水時に於ける安定度を増したこと。

第三は桁受部に於いて従来の隔石にかわり、通風、排水装置を備えた桁受沓鉄を設け、橋体と橋脚との取付を強固ならしめると同時に、従来錦帯橋の最も弱点とされていた橋体、橋脚結合部に当る桁の防腐対策を講じたこと

第四は木材全部に防虫、防腐剤PCPを加圧注入し腐蝕による架換期の延伸を図つたこと等であります。
本工事に要しました資材の主なるものは、

松、檜、樺、栗、榿等の木材 一千七百石

セメント

九百六十二噸

鉄筋、鋼板、金具等の鉄材

九十一噸

銅材

三、四噸

使用致しました労力は

延六万八千人総

総工費一億一千八百余万円

工事所要日数二年一ヶ月余

となつております。

この間昭和二十六年七月のケイト台風、同年十月のルース台風その他工事遂行上大小幾多の難関に遭遇致しましたにも拘らず、之という事故もなく早期に且つ昔に劣らない麗姿を再現し得たことは、工事関係者が「郷土の芸術は郷土人の手で護れ」という伝統精神に燃え、真に一体となつて苦難を克服した努力に俟つところ大なるものがありますが、又御列席各位の熱誠溢るゝ御援助、御指導の賜物であることを痛感し感激に堪えません。

茲に工事の概要を御報告申上げますと共に謹んで深甚なる謝意を表する次第で御座います。

三、毎日新聞の觀光地百選一等当選と郵政省の記念切手

五月三日の完工式の機会に於て、郵政省が特に錦帯橋の為に、五橋の新しい姿を象現した記念切手を発行し、今日の佳き日の式場にて、松井郵政局長の手から久能市長へ、初刷りのインキの香の真新しいものを贈る厳かな贈呈式が、目立つて会衆の注視を惹いた。他の面では、郵政省内に事務所を有する郵政協会が、其の発行する雑誌『ゆうびん』の五月号に錦帯橋に関する記事と写真繪画を満載して、記念切手発行の意義を宣伝したのを併せ視るとき、記念郵便切手の由来が偶然でないことが理解せられる。其れは昭和二十五年、我國新聞界に於て発行部数からいうても新聞の記事から見ても、有

力なるものの一として重視せらるる『毎日新聞』が、全国観光地百選を発表して、勝景の部門を十種に別ちて投票を募集したに本源を発する。即ち海岸、山岳、湖沼、瀑布、温泉、溪谷、河川、平原、建造物、都邑——此の十種は地理的に見ても全日本に普遍し、其れ其れの郷土人は概ね其住地々々の方面に於て、之を推挙投票するに幾んど無頓着で居られない興味に驅り立てられるのであつた。果然、天下の耳目は此の毎日新聞の観光地百選に集中し、日々の得票点数は一高一低都鄙を通じての大評判となつた。

わが錦帯橋が何れ此の選挙に漏らさるべきぞ、郷土人は勿論の事、山口県下は勿論の事、他府県の熱票も加わりて十種の内の「建造物」の部門に於て、忽ちにして前列へ前列へと躍進を続け、さながら英雄が汗馬に跨りて有ゆる群雄を飛越え進出するがように、最後には一方の雄たる備後尾道沖の島なる名利の耕三寺と組みみて、何れか優、何れか劣をび三日争うたが、岩国市民は老幼男女の別なく此処を先途として戦い抜き、遂に耕三寺の九十九万七千二百九十七票を抜くこと二十三万余票にて百二十三万八千二百十八票を以て、全国の建造物中その第一位を優勝し、嶄然、周防の東天に聳えて日本全土を睥睨するに至つた。

但し此の大勝利を得る途中に於て、二十五年九月十四日のキジア颱風に因る落橋惨事を偶発し、大勝の報は其の残骸の上にもたらされた。錦帯橋の二百八十年に亙る有形の姿は失われていたけれども、其魂魄は立派に現存して居る。やがて立上つたものが則ち昭和二十八年五月三日を以て祝された完工の姿である。「毎日新聞」の観光地百選の功を岩国市は空しくするものでない。錦帯橋の英霊も「毎日新聞」の壮挙に背くものでない。今や以前に増した強固の台脚基礎工事と橋梁工事とによりて、千年不落の強さを以て一等入選の名譽を長久に堅持するであらう。

郵政省が記念切手を発行して、其の復興を天下に示してくれられた事は、橋を持つ郷土として感謝に堪えない。恐らく

此くの如き特典は錦帶橋あつてよりの初めての事蹟であらう。毎日新聞觀光百選の一に加わりて其の優勝者となつた錦帶橋大勝利の名譽と、此の記念切手發行の特典との二つは、錦帶橋史の上に忘れてはならぬ二つの著明な記録であらねばならぬ。

百選に堂々入選したについて昭和二十六年十一月二十六日、盛大なる其の選彰式が行われた。其の状況につき「毎日新聞」十一月二十八日の紙上は賑わしく左の通り報道した。

錦帯橋百選首位選彰の大きなよろこびを迎えた二十六日の岩国市は美しい紅葉に照り映えた街の隅々に、ふりまかれた本社ニュースカーのダイナミックなメロディに明るく浮き、悲しい流失のあとをとどめる橋畔は、入選の歡喜と再建への熱い願いを幼い手にこめて打ちふる旗の波でうづまり、晩秋の山々に高らかな観光讃歌をどよもして行つた……。

晴れの選彰式場にあてられた錦帯劇場は午前八時にはすでにこの日の喜びをわかつべく、集つた人々が長蛇の列をつくり、開会一時間前には場内は数千の市民たちで身動きも出来ないほど、ギツシリ埋まつた。

会場正面にはりめぐらされた大小の本社旗が、こうこうたる照明の下に紅白の視色をいつばいにみなぎらせる。

高橋本社総務から選彰状を授与される。土肥岩国市助役の両手がかすかにふるえ『皆さんおめでとうございました。再建は百選からの合言葉で力をつくされた皆様の涙ぐましい努力の結実です。きつときつと力を合せて再建致しましょう』

と力強く祝辞をのべる田中知事や来賓たちの声の高まりのうちに、式は順調に進んで行つた。

「百選投票は観光日本完成へのほんの序曲にすぎぬだろう。この日の感激をそのまま今後の郷土観光への努力に結集させよう」「われわれは名橋流失のあの日、ぼう然自失してなすところを知らなかつた。だがいま選彰の歡喜を胸に抱き

しめる時、再建への勇気がわいて来る」

式でのべられたこれらの言葉は、ひとつひとつ聴衆の心を激しく衝いた。

やがてステージは回つて光やかなミス錦帯橋発表会——紫紺のドレスや金茶の晴衣に身をつつんだ美しい六名のミス錦帯橋が、花輪をバックに清純な香気をたたえて紹介されると、場内からわれるような拍手が起る。岩国小学校三年生浜安房子さん（八つ）ら六人の可愛い嬢ちゃんたちが、「観光のお姉さま」へうれしい花束を贈つたあと待望の十万円懸賞抽選が開始された。

舞台横につまれた郵便行囊の山、その中には地元岩国の六万市民はもとより、橋流失とともに全国各地から協賛の真心をこめて日本観光地選定会議へ送られた百二十三万余枚のハガキがつめられ、十枚づつ一行囊につめて番号を打ち、ミス錦帯橋が封筒内の番号をひき、さらにその中から幸運のハガキ投票者を抽選するわけ、此内八十万枚までは個人名にされず、岩国観光協会の名で出されているため、目隠しをしたミス錦帯橋が行う。抽選では同協会が当選する率が多いので個人にはなかなか当りそうになく満場片唾を飲んで見守るうちに、まず記念贈呈組千名が決定、三等一万円が三枚のうち二枚までは同協会に当り、残り一枚が同市西局区内山本軍一さんに当つた。というので場内大にぎわい、二等二万円二枚は皮肉にも二枚とも同協会ですら再び爆笑のうずとなり、さて最後の一等三万円一枚については、なんとかして個人に当らせたいものと協会側から「抽選二度までは協会に当つても棄権します」と申出たが、これは一度で、ものの見事に同市尾津藤井進さんに大当り、終始朗かな抽選珍風景を綴つた。

かくて高潮化した行事は当日の呼物である。「軽音楽と歌謡曲の午後」へ入つた。まず山陽パルプスインギングバンドが軽快な「ビヤダルボルカ」など五曲を演奏、終つて選手十八名が参加しての素人のど自慢大会が開かれ、この日わざわざ西

下して来たビクター専属山下智子、西村正美両歌手と小沢同文芸部員の審査で、「牧場の朝」を歌つた同市本町久喜田幸夫君が一等、二等米地始、三等長崎進両君が入選「大へん上手ですワ」と山下さんにおほめをいただいて、うれしそう。終りに山下、西村両歌手が心をこめて歌う歌の花々に、この日一日を選彰の感激に燃えた人々の心を楽しく温かく慰め、盛況裏に全行事を終つた。

錦帯橋選彰十万円懸賞抽選者は別報の通り決定したが、千名に対する記念品贈呈者に対しては近く現品を發送、發表にかえることになつた。なお岩国市観光協会では賞金六万円を錦帯橋再建費の一部にあてるほか、百二十三万余枚のハガキも回収費を同様再建費にあてる予定。(以上毎日新聞昭和二十五年十一月二十八日紙上記事)

四、天候異變と戦いたる再建事業

(市長ら三役が辞表を懷ろにしていた後日物語)

陸上の仕事と違い河の中の仕事であるから、天候の晴雨は殆んど支配的と言つても強ち過言ではない。錦帯橋の再建に当り建設当局並に担当の建築業者が、其の工事を速成せしむる必要上、会ま夏秋の交に際会すれば降雨出水を顧慮せざるを得ざるは前にも記した通りで、二十六年七月のケイト台風に次ぎて同十月のルース台風等、其の障害の少なからざりしに徴し二十七年も春過ぎて夏となれば天を眺めて風無かれかし雨なかれかしと祈るは当然過ぎるほど当然である。

昭和二十七年は五橋とも竣功せしめねばならぬ年である。先づ第一、第二橋を三月迄に竣功せしむる段取であつた。けれども前年のケイトやルース台風の邪魔によりて山元木材の運出に手違いを來して延引の已むなきに至つた。其れが第三、四、五橋の工程延引に波及する。若しも出水期の風雨を眼中に置かずに無算当に橋脚基礎工事を行い又架橋工事を実施す

るときは、濁流の為に工事諸材料を奪い去らるゝ大損害は勿論、若夫れ架橋中とすれば橋梁を支ゆる足場を奪われるのみか、組立中の橋梁まで墜落流失の運命を招き、莫大の損害を蒙るなきを保し難いのである。七八九の三ヶ月間の工事実施は冒険を免れないと言わるるも、決して杞人の憂として笑うことはできない。

由来、錦川の最大洪水期は冬期の二月と夏期は八月とされている。而も冬期二月は兎に角として、夏期八月に至りては豪雨出水なしと断言することは出来ない。過去多年の間に於て往々此の洪水常例を破りし異変の無いことはないからである。茲に於てか今や錦帯橋建設局及び其工事を担当する建築業者（大工）の方面に於て、第一、第二橋に次で第三第四と継続的に工事を行うて宜しきや否やの問題が生じたのであつた。即ち天候異変ありと見て此場合慎重に対処し、八月を姑らく見送るがよいという説と、一方には、何も台風が来ると限つたことはない、八月の此時期に降雨のない年も是れまで数々あるから、此際躊躇なく続行して速成方針を遂ぐべしという説と、両々相對峙したのであつた。此続行論の有力なる主張者は橋梁建築の担当者たる大工の方面に声が高い。其れは天候を恐るるよりも、只今暫時でも休業すると、其の手下に在る大工等は一時でも業を失うから四散して他の仕事に赴いてしまう。再び工事を始める時又此方へ歸り来ぬ。折角建築開始以来、施工に習熟している者が散じて復び集り来らぬとあつては橋の建築上由々しき損失であるというのが彼等の第一の理由で、第二は過日來の太陽の光を仰ぎ見るに、其の光の色がわれわれの實驗上、当分豪雨のない天象を現わしている念の爲め宮島へ參詣して神示を伺つた処が、八月は出水するような雨は降らぬという「おみくじ」であつた。是れらに依りて、雨は降らぬものと確信して工事を続行して頂きたいというのが大工棟梁たちの申出でて、而も其れが十分の自信力ある強い要望であつた。

之に對して建設局の技術部面の人々は続行論の建築業者と同意見であつたけれども、顧問の青木博士並に佐藤博士は慎

重論を支持し、冒険は可成的避けるがよいという意見であつた。殊に其の頃上京中の久能市長から飛電あり「建設省は八月続行は不同意である」という意味のものであるから、建設省の意思に反して続行を敢てし、若しも出水被害の不幸を招くならば其の損害を建設省に訴えるわけには参らぬ。又同省もそれを受付けぬであらうから、専ら市に於て其れを負担せねばならぬことになる。是又一大事である。そういう処へ持つて来て、市議会の空気が、自重論が相当強く動いていたので、建設局としては続行論と自重論との間に立つて取捨撰択に苦心を重ねたのであつた。然るに其の主題は天候異変があるか無いかに在る。幸に其の期間（八月一日より同十五日の間）に於て風雨の恐るべきもの無しとすれば、再建上の一刻千金を自重空しく手を拱いて過ぐすべきでない。茲に於てか建設局から美川、柳川両吏員を下関測候所へ派遣することになつた。

其の調査は、過去三十五年間の一般の晴雨、降雨量等の調査並に八月より来る二月までの天候、特に八月の降雨に就ては入念に取調べる、其れが派遣の目的であつた。

調査の結果は八月一日から十五日迄の間には過去八年間降雨は無いということになつた。此くて一般の調査から判断すると、此の期間に工事を続行するとも危険の憂は無いという結論を得たのである。此の天候調査の結論は続行論者の側へ有力なる支援を与え、市長の東京電報もある事ながら、又市の内部にも自重論もある事ながら、大勢は続行論に傾き遂に品川建設局次長をして建築業者の希望に随ひ八月一日から十五日の間に於て橋梁の建築を完工し、よし其後に於て出水ありとも、最早影響を被らざる計画を定めて直進邁往することに一決した。

但し此処に慎重なる用意を要する。若しも一日から十五日迄の未完工の間に、不測の天候異変ありて出水被害の虞れある場合は、可及的其れを軽少の程度に止める用意、其の一つとして而も重なる一つとして、橋梁を支える足場の組立木材

——横橋に林の如く立ち並ぶ其れが、激流に渡られて落ちゆくことあらば、其れを下流の橋梁の脚に引つ掛からせぬため落つる時は観音開きに左右に両分して橋下の兩岸に引張りつけらるゝよう鉄索を以て拘束して置いたのである。是より先き昨二十六年十月十四日のルース台風にて、橋材流失の際、下流両川の橋梁が六つまでも落失し交通杜絶の大損害を出したるは、全く上流の流失物、主として錦帯橋工事諸木材の漂着に因るのであるから、今度上記の用意に出でたるは当然の措置である。

此くて八月一日より一週間に足場を組立て、これが出来たら十五日までの一週間に橋桁を造り、よし足場が失われるとも橋梁に無影響の計画の下に断行することとした。其れは七月二十日頃の協議で決定し、大工の方は七月三十一日迄に用意萬端手落なく整え、八月一日の早暁と共に着手し、衆心協力、寸刻の無駄時間を費やさず一齊に進發した。天候異変を相手として向うに廻し、此の十五日間の成敗を賭しての事であるから、当時の光景を回想すれば、建築業者も建設局の諸吏員も、実に悲壯其の物であつたことを百年二百年の後までも忘れてはならない。

処が八月十二日の朝の事、ラジオ放送はキャレン台風が南洋上に發生して、本邦に向つて来るとの天候異変の予報である。下関測候所の天氣の保証も、天の為せる此の異変——人間から見れば——は如何ともしがたい、今は昼夜兼行で此災禍を免れる工夫の外はない。十三日になるとキャレン台風は夕刻頃に九州上陸、中国地方も警戒線に入りそうとの警報がラジオ放送によりて伝えられた。既に十二日の警報以来、大工の一派は定刻出勤の型を破つて午前六時出勤、午後八時半退出、たまたま盆の供養休日に際会しているが之をも休まず、台風襲来前、仮令一尺でも二尺でも橋梁の完工を急ぎて其の災害を少なくせんことに生命を賭していたのであるが、引続く台風警報には愈々緊張し、十四日は強風警報となつて夜中は嚴重警戒となり、殊に橋脚^{ピア}築造担当の建設協会の一党は、其の総帥日野組社長日野賢氏を筆頭に、橋側の横山会館

内に屯集して徹夜不眠警戒に當つていた。それは、いよいよ橋の足場が危ういと見たときは、即時之を切り放して観音開きにして流すという前記の予定行動に出でねばならぬが、之を成し得る者は鳶職の腕に頼るの外はないからである。

十五日までは雨なしと言われた其の天候異変に面喰つた大警戒陣、若しも其の通りに周防東部に襲来するならば、其の損害や測り知るべからず。有ゆる公算を以て半ヶ月間は大丈夫と看取して建築統行の活断に出たものの、心配なのは建設局並に統行論を主張した大工の一堂、又之に賛同した人々の胸の動悸である。不幸にして建設省の統行不可の電報来牒が適中したとすると、其の意に反した責任は第一に何人が負うべきや、自ら明かな事であろう。岩国市長、建設局次長、同局工務課長は差詰め切腹物であらねばならぬ。さうすれば大変な事になりそうだと、空を仰いで雲行きを眺めながら心配する者は其の周辺の人々で、憂色は何んとなく曇つた顔に現われていた。

十四日の夕刻、キャレン嬢は南九州の辺角を掠めて日本海へ抜けてゆくとの、ラジオ放送は如何に錦帯橋周辺の人々の心の低気圧を打払うたか、それが又渤海方面へ去つたとの続報にて如何に我が心境を晴空一碧に急変せしめたか、真に市当局のみならず、建築当担者のみならず、片唾を飲んで手に汗を握つた市民までが歡喜雀躍した。此くなれば成敗利鈍は渾べて度胸だという名譽を博することになる。天候を向うに廻しての此の大相場も難なく岩国市側の大勝利に歸した。結果から見れば誠に目出たい喜ばしい事になつたのであるが、七月から八月にかけての此の大冒険決行前後の当局の苦心は油汗のにじみ出るような慘憺たるもので、後世の人々、再び此の橋を築造することもあるならば、一九五三年の再建当時の時の人たちが、此くも天候異変と健闘した事蹟を顧みて、自己の指針の重なるものに加えんことを囑望しておかんと欲する。さて此処に、事前の苦衷、事後の笑話の一談柄を書き残しておこう。此くなれば其れも亦た錦帯橋史上、一驚瀾去つて

後の一興劇であろうから。

無難に過ぎた或日の午後、橋の事で久能市長（建設局長）、品川建設局次長、八賀工務課長の三人が打ちくつるいで協議を済ました後、過ぎにし天候異変冒険当時に及ぶと、品川次長は笑いながら懐中^{ポケット}から一通の書面を取出した。其れは辞表であつた、今は反古となりにけりであるが、あの冒険にして若しも失敗に帰する時は、屑よく責を負うて辞職する覚悟であつたから、一本書いて懐中していたと語るのである。

其れを見た八賀工務課長は、又笑いながらポケットから血の染まぬ白い紙を取り出した。これも同じく覚悟の辞表を意して乗り切つた物語りに三人とも高笑いを揚げると、今度は市長が机の抽斗^{ひきだし}から何やら探し出す。是れを見てくれというので兩人が披いて見ると、これ亦た市議会に宛てた市長辞職の決意表明書であつた。三人とも覚えす哄笑を揚げた。以て其の当時、五橋復興速進につき、如何に悲壯の覚悟を抱いていたか、三大責任者は既に勢いに乗り掛つた以上は、各々期せずして、各々一枚の白紙の上に、この天候冒険の責任の血を塗る覚悟を深く胸に藏めて、難関突破の先陣を乗り切つたのである。これが後日の一笑話となつたことを幸いなれ、若し三人辞職が実現すれば雷に人物の損害のみでない錦帯橋再建費の上に思いがけない莫大な失費の増加を招き其の再建は困頓を極めたことであらう。

第十七章 市民今後の課題Ⅱ錦帯橋の「大環境」を

如何にするか

一、鳴子岩より下土手町迄の道幅擴張

偕又、橋の環境を改良して、古代的橋景に相応^{ふさわ}しきものたらしめんとするには、尙多くの努力を要するものがある。

橋の西寄り横山側の河岸風景は、先年の河川改修工事に依りて稍々橋の景觀に添うものとなつたけれども、東南寄りの錦見側、土手町方面に至りては、美人の眉髪猶未だ整わざる憾み多しと為す。

著者は岩国町長として、己に横山側旭町の改良を終えたから転じて東岸側土手町方面の改良工事を企て、此工費拾貳万五千元、其内五六万円は義済堂寄附金に依るのであつた。然るに義済堂の収益が大幅に政府納税に強徴せらるゝことになつて寄附俄に止み、為に財源の大部が途絶、遂に実行不能となりて中止の已むなきに及び今日に至りたるも、此事は是非実行すべきものと思う。

其れは川に面する外側の連簷家屋を白為旅館から下土手迄内側に移築して一列と為し、外堤と内堤との間の凹地（俗称下屋^{しや}）を埋立てて茲に大幅の堤防道路を開き、これに柳、松、桜の類を植え交えて義済堂工場附近に至らしむ。此くすれば今の見苦しき眺望を一掃して旭町と兩岸対応、真に錦帯橋国の橋国たる景觀を、日本画の中に卷き広げたようになるのである。

土手町の道路拡大に伴い橋の上部の道路も亦拡大の必要がある。随つて角の売広から旅館の一列を背後の土地を埋立て後退せしめねばならぬ。只今でも橋畔の此の道幅は狭きに過ぎ、車馬の運行に雑踏を極めつゝあるは我等の日日親しく睹るところであるから、今後十年を待たずして車輪相撃ち、身動きもならぬようになるは見え透くところである。此くては錦帯橋の景觀に影響するところ、如何に大なるかは卓見あるものの等閑視すること能わざることであらう。

要は錦帯橋を中に抱く附近の道路を広濶にして、櫛の^{なら}ように比^なび、鱗のように重なる連簷家屋を、橋から出来るだけ遠うのけて、広るびろとした環境の中に、五龍空に横わり虹霓雲に映ずる景觀を縦まにせしめんとするに在る。殊に萬一の火災が橋辺の家屋に發生して、鳳伯之を煽ることあらば、木造錦帯橋の運命や知るべきのみ、今日まで此る不運のなかり

し事を以て将来の絶無を保証するわけに参らない。敢て杞人の憂として此事を等閑に附してはならぬ。

二、錦帯橋通りの街路の大擴張

次は大明小路より新小路に至る所謂錦帯橋通りの道路の拡張である。明治維新以来茲に八十六年になるが交通量の繁劇なる我々の日々目撃するところ、閑々たる往昔と別世界たるに係らず、依然として旧藩時代の路幅を以て安んじて居る。此の位い時代錯誤はない。岩国駅より錦帯橋に至る路線はわが岩国市としては表玄関の都大路である。著者が岩国町長たるの時、内務省の国道改修の施設に応じ、之を八間幅にする方針の下に其の一部を施工したが、それは昭和八九年の頃の事である。今日としては八間や十間では狭い。宜しく十二間道路として車道八間、歩道両側各々二間宛とし、街路樹を植えつけて、西岩国駅より略ぼ一直線に錦帯橋に到らしむべきである。勿論此の計画は相当多額の金を要する。されば改善として姑息な新道路で安んぜんとする彌縫策が試みられるが、岩国市百年の大計、否な十年二十年の大計として一刀兩断、開腹術を行い、積年の宿患を一挙に解決することが、観光都市たる岩国市の当然の処理である。之れなきに於ては、錦帯橋が如何に美装を施して立つていても、それは荒園の中に置かるゝ美人像で、世界に誇るべき文化財などと絶叫するには、あまりにも我れを知らざる大膽と言わねばなるまい。

三、四面の山々を緑化する事

次は錦川を囲む山、それが川に面する方の山の緑地帯造成である。御城山は風致保安林としての官林で、錦帯橋の風致の為に保全せられて居るが、他の山は概ね民有林で必要に応じ伐採するから常緑はあり得ない。殊に戦時中は運搬し易き地域から松林を伐採した。現に橋畔の元田嶋家の松山（只今の観光ホテルの境内）はその翠りが、橋と照応して美景を添

えていたものであるから、「都市計画法」に拠りて私有財産であつても勝手に伐採が出来ぬように制限されていた。臥龍橋より下流の妙見山の附近から愛宕橋に至る断崖の松樹も亦然りであつた。若し所有者が之を伐らんとすれば、一応許可を受け而も間伐程度の外は出来ないものであつた。然るに戦時中は木材の急需を充すために、法は現存していても命令事項ではこれらのものが除外さるゝことになつたから、元田嶋の山も妙見山の絶壁も「風致地区」の範囲であるが其の翠りは伐り去られてしまつて、殺風景となつたのは現状の如くである。

今日のまゝに放任すると、川に臨む山々は荒廢して其の緑りを失ひ禿げた肌を段々と現わして来る。現状既に然りであるから将来老人の頭のようになるのは見え透いている。此くなれば錦川の四季の好風景は半ば失われゝと共に、錦帯橋は風光景觀から孤立するに至るであろうというのは、著者の餘計な心配であろうか。

四、河川敷の保護とバラスの濫掘

次は河川敷の保護である。錦帯橋附近の河川敷は過去三十年来餘程変化して来たように思う。今度の橋の再建に当りて橋梁の高さを以前のものより中央に於て約一メートルを高くしたのも、洪水位の変化を顧慮し安全を期したとある。近年は橋の上流下流に於てバラスの採取が行われ（戦時中は軍艦用として殊に然り）其れが河水の流勢に及ぼし橋脚周辺の河床固めに影響を来せるは勿論である。流勢急を加うるに至れば、橋脚直辺の保護石を刎ね起すことなきを保し難い。現に従前から此の実例はある。旧記に依れば、河床保護の為に橋の上下六十間の範域に、河床下深く生松数万本を打込み、割栗石を其間に填充して固めを為し其上に石を疊み込み、更に其上に四十間が間第二層の敷石を疊み、更に又第三層の敷石を橋の上下二十間が間に延べてある。其の最上層の敷石は、今日でも我れ我れが水底から目撃するものであるが、其の敷石が流勢の急を増すに随い上端部より掘り起されて流失する。今日に於ても其数已に多しと見る。されば出水期に於ける

激流の勢を長ぜしめざるよう、河川敷の保護に意を用い、漫りにパラスの採取を為さしむる如きは大に愼しむべきことと
思う。是れは岩国市が法に依りて委任された権限に属し取締り得るは、著者の在職当時と変らないと考える。

五、横山公園の整備と擴張

錦帯橋の再建既に成る、而も其の西の環境たる横山公園が今日の状態を以て推移に委ねらるるときは、名橋の面目は半ば顔を掩うて其醜を匿くすに似たりと云うの外はない。

其の昔、岩国保勝会の發起せられしとき、其の半ばの目的は横山を中心に大公園となすべく、計画が定められたのであつた。大正年代に於て岩国保勝会は、本邦公園設計の權威者とも言われし故林学博士本多静六氏を聘して、之れが計画を定めたるも其の主旨は全く是に在つたのである。著者の岩国町長たる時に、県の都市計画課と協議して横山公園の設計を成し、大略の計画整い、年次を定めて着々実施に向わんとするに当り、県の財政計画に変更ありて岩国中学校の改築中止となつた、実は其の改築を機会に、寧ろ之を錦見方面に移築して其の跡の敷地全部を、公園の中心たらしめんとする根本計画が俄に不可能となりしが故に、横山公園の新発足は忽ち頓挫して荏苒今日に及び、其の殆んど二十年に近き間顧みらるゝことなきが故に、横山公園か横山荒園かの指笑を招くに至つた。

外來の觀光客が橋を渡りて横山吉香公園なるものを觀んとて歩を進む。桜花散じ尽しての後は何んの見るべきものなく雜草時を得顔に園に茂り、家々の練堀は瓦も落ち壁土も剝げ、没落せる旧城下屋敷の荒涼風景を見せつけられるに失望して、半時を費やさず踵を回らし橋を渡りて歸り去るを常とする。これでは觀光の客を橋に依りて招くとも荒園によりて追ひ歸すに外ならず。是れ横山公園の整備と擴張とが、此処數年來識者の間に盛んに唱えらるる所以であつて、其の方策の如きも既に備つているから、要は其の實施を速かにすることが第一の要件である。

六、錦川綜合開發と洪水對應策

錦川綜合開發計画は此の數年來の懸案であるが、是れは区々の局部的利害に囚われず國家の現在將來の大計の爲め、近き將來に於て必ず成功せしむべきである。錦川上流の或地域に於てダムを造り雨水の調摂を計るのであるから、電力發生の利を興すと共に洪水の深害を防止することになつて、下流の岩國市の受くる利益は少なからざるものがある。若し此の洪水調摂法が急速に行われぬとすれば、昭和二十八年の九州及び紀州方面の大水害に鑑みて、錦帶橋附近の兩岸堤防に第二次修築を施す必要なかと思料するものである。

第一次は著者が昭和八九年頃、國と県の協力を得て所謂錦川改修計画の下に実施した。即ち西河岸は横山旭町から千石原堤防並に川西堤防の修築、東南河岸は鳴子岩附近から上土手、下土手散島、新小路土手に至る長距離の修築である。昭和二十六年十月十四日のルース台風の襲來は、錦帶橋再建工事中で其の被害少なからざるものがあつたが、此時の風速は三十五メートル、雨量は二百七十ミリ、洪水滔々兩岸を圧し、若しも昭和八九年頃施工した土手町の外堤の新築なかりせば、水嵩が昔からの内堤より二尺余も高かりしが故に濁流一瀉して土手を越え、西岩國の市街は忽ちにして水底に没し人畜の死傷多大なるは勿論、家屋財物の流失算なき大禍を招いた事であろう。これは著者の独善的空言でなく、其の當時市街地の人々が、外堤の功德を初めて知つて礼讃した戦慄物語である。此の実例から今後を想像するに、上流の出水を調摂するダムの修築を要すると同時に、又不幸にして九州や和歌山県のように雨量四百ミリ五百ミリという如きこと周防地区を禍いすることあらば、災害や免るるに道なし。人の爲せる禍は猶免るゝに道あり、天の爲せる禍は免るゝ道なし、只だ平生より人々の用意によりて始めて追ふることが出来得る。重ねて言う、錦帶橋は環境に依りて其の光華を増減す、環境荒れて何ぞ錦帶橋あらんや、郷土人之を忘れて橋にのみ營々汲々たり、故に告げんと欲す、須らく錦帶橋の大環境を造成

するに努力せられよ。

茲に書き加えて現代及び後世に問わんとするのは、老婆心ならぬ老爺心に外ならぬ。

× × × × × ×

今茲に、錦帶橋史を書き終る。昭和二十五年十一月稿を起し、二十六年三月、第十章までを稿了、姑らく起工後の経過を静観し、二十八年一月十五日の渡初式を見て再び起稿、五月に至つて乃ち筆を停む。其の後草稿の補修整理を了えつゝ、漸次活字子に附す。此間二年八ヶ月、敢て短日月というにあらざるに、記す所猶未だ到らざるものあらんを愧づ。後世卓識の士、補正して全きを得れば、著者世に在らずと雖も黄泉の客途顧みて拜喜するであらう。

時に昭和二十八年七月三十日、三伏の酷暑、筆を投じて長嘆之を久しうす。八十三叟、後記。

錦帶橋史 終